教授
坂田　郁子

■　学歴

1．　2010 年　福岡女子大学大学院卒業

■　学位

1．　2010 年　修士（人間環境学）

■　研究分野

1．　公衆栄養学
2．
3．

■　研究キーワード

1．　食環境整備
2.　減塩食品
3．　若い世代の食育

■　研究課題

1．　高血圧予防のための減塩とカリウム増加のための食環境整備が、減塩食品の販売促進につながる手法の検討を行う。

2．　若い世代の食の課題である野菜摂取不足、朝食欠食について原因を分析し対策を検討する。

■　担当授業科目

1．　公衆栄養学Ⅰ（後期）（栄養学科）必須
2．　公衆栄養学Ⅱ（前期）（栄養学科）必須
3．　公衆栄養学実習（後期）（栄養学科）必須
4．　地域栄養活動論（後期）（栄養学科）選択
5．　臨地実習Ⅲ（後期・前期）（栄養学科）選択
6．　総合演習Ⅱ（前期）（栄養学科）選択
7．　管理栄養士演習Ⅱ（通年）（栄養学科）選択
8．　実践活動（後期・前期）（栄養学科）選択
9．
10.
11.

■　授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1．	授業科目名【公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ】
	集団や地域の健康・栄養改善のために、栄養課題やニーズを把握し、対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供する公衆栄養プログラムの作成、実施、評価・フィードバックするための知識や方法を修得させるため、自治体で実施されている実践事例を紹介し公衆栄養プログラムへの理解を深めた。
2．	授業科目名【公衆栄養学実習】
	公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識・技術を基に、地域診断、既存資料の活用、文献検索を行い、グループ毎の主体的な取組みを尊重しながら、PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムが作成できるように指導した。
3．	授業科目名【地域栄養活動論】
	地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務について外部講師の講義を交えながら解説を行い、管理栄養士の役割や多職種連携について理解させるとともに、臨地実習Ⅲに臨むための基礎知識の修得に努めた。
4．	授業科目名【臨地実習Ⅲ】
	実習期間中に実施される実習課題内容を事前に確認し、課題への指導を徹底して行い、臨地実習が有意義なものとなるように取り組んだ。臨地実習の巡回時には、実習での学びが今後の授業や職業選択に活かされるように、実習中の学生への助言を行った。また、今年度はコロナ蔓延防止期間中のため、２週間前から健康管理の記録、自粛行動を遵守させ実習に臨ませた。
5.	授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士国家試験教科「公衆栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解するために、国家試験の過去問題を分析し、出題傾向に的を絞った問題を作成し解説を行った。また、苦手な問題は何度も練習問題を解かせ、克服することに努めた。
6.	授業科目名【総合演習Ⅱ】 卒業後管理栄養士として働くために必要な個人の栄養管理手法について、高齢社会の中、在宅で療養する高齢者が多くなってくるため、在宅療養高齢者に必要な栄養管理手法について、事例をとおして説明し、幅広い視点をもって対応することができるように努めた。
7.	授業科目名【実践活動】 地域でおこなわれている公衆栄養活動を理解させるために、北九州市が取り組んでいる若い世代の食育推進事業に協力し、管理栄養士としての活動を理解させ、健康増進・疾病予防に必要な知識と技術の修得に努めた。また本年度は未活用農産物を活用した商品開発についても指導を行った。
8.	

■　学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1．	1987 年 2 月～現在に至る	福岡県公衆衛生学会	
2．	2005 年 3 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3．	2006 年 5 月～現在に至る	日本公衆衛生学会	

4.	2021 年 9 月～現在に至る	日本高血圧学会	
5.	2024 年 5 月～現在に至る	日本食育学会	

■　研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2024年7月	地域における減塩食品の入手可能性を評価するための調査方法の開発	共	日本公衆衛生学雑誌第 71 巻第 7 号	①地域における減塩のための食環境整備を推進するために、標準的な減塩食品販売状況調査方法を確立させるため、減塩食品の基準、実践のためのマニュアルを作成し、全国で使用できるような手法の検討を行った。 ② 共著者名：早渕仁美、武見ゆかり、太田雅規、**坂田郁子**、坂口景子、久保彰子、由田克士、北岡かおり、岡見雪子、大久保孝義、岡村智教、野出孝一、三浦克之 ③P366-375
2.	2025年3月	未活用農産物を商品化に SDGｓに取り組もう	共	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部地域貢献活動報告 2024	①食べられるのに捨ててしまう地場産野菜を活用して、地域の農家や企業および行政と連携し販売できる商品開発を行った。 ②共著者名：坂田郁子、山田志麻、船越淳子 ③P14-16
3.	2025年3月	8つの料理区分を用いた簡易食事診断手法の検討	共	西南女学院大学紀要 VOL.29	①「主食」「主菜」「副菜」等の料理区分を用いて、簡便でかつ対象者に分かりやすい結果を提供できる、24 時間思い出し法を用いた食事診断手法を検討した。 ②永原真奈見、山口瑠美、原田帆乃花、**坂田郁子** ③P1-16

（翻訳）					
1．					
2．					
3．					
（学会発表）					
1.	2024.9	8つの料理区分を用いた簡易食事診断手法の検討	共	第 71 回日本栄養改善学会（於大阪公立大学）	①主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品、果物、菓子、飲物、酒の８つの料理区分を用いて、簡便でかつ対象者に分かりやすい結果を提供できる食事診断手法を検討した。 ②共同発表者名：永原真奈見、山口瑠美、原田帆乃花、坂田郁子 ③第 71 回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P377)
3．					

■　外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究				
	研　究　題　目	**交付団体**	**研　究　者** **○代表者（ ）内は学外者**	**交付決定額** **（単位：円）**
1．	若い世代の食育推進事業	北九州市	○坂田郁子 永原真奈見	69,965 円
2．				
3．				

（2）　個　人　研　究				
	研　究　題　目	**交付団体**	**交付決定額** **（単位：円）**	**備　考**
1．				
2．				
3．				

■　社会における活動

	任　　期 **期　間　等**	**団体・委員会等の名称** **（内　容）**	**役　職　名　等**
1．			

2.			
3.			

■　学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任　　期 期　間　等	会議・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等
1.	2021 年 6 月 16 日 ～2024 年 3 月 31 日	保健福祉学部栄養学科長	
2.			
3.			